

世代別・職業別タウンミーティング(要約)

テーマ：みんなでつくろう安全・安心・笑顔のまち まつやま
～災害に強いまちづくりをみんなで話し合い考えよう～

平成27年4月17日(金曜日)

【市長】 皆さんこんばんは。今日はお集まりいただきましてありがとうございます。まず、松山市版のタウンミーティングとはどういうものかご説明させていただきたいと思います。私、平成22年11月28日の選挙で皆さんに選んでいただいて、その当時からタウンミーティングをやろうと思っておりました。松山市は旧の北条市、旧の中島町を合わせて全部で41地区に分かれますが、どっちが楽かというと、市役所職員は市民の皆さんがお越しになるのを待っているほうが楽です。でも、果たしてそれでいいんでしょうか。我々から各地区に出向いて、各地区の課題を聞かせてもらって、課題は減らし魅力は伸ばすまちづくりをしましょう。市長自ら行かせていただき、ご説明をさせていただいて、そして生かせるところからすぐに市政に反映していくタウンミーティングを重ねていきたいと思います。ということでやらせていただくようになりました。市長の任期は1期4年の48カ月で、41地区ですから1カ月に1地区のペースで回っていこうと思っておりましたが、松山市版のタウンミーティングは聞きっぱなしにしない、やりっぱなしにしないタウンミーティングです。皆さんからご意見をいただいて、できるだけこの場でお答えをして帰ります。中には国と関係する案件や県と関係する案件、財政的に考えなければならないものもあり、いい加減な返事をして帰るわけにはまいりませんから、一旦そういうものは持ち帰らせていただき、1カ月を目処に必ず返事をお返しするのが松山市版のタウンミーティングの特徴です。やりっぱなしにしない、そして聞きっぱなしにしないタウンミーティング、生かせるところからすぐに市政に反映するタウンミーティングを重ねてまいりましたので、おかげさまで好評になりまして、前倒しをして2年2カ月で一巡りすることができました。4年の中でもう1回回ろうということで、結局全41地区を二巡りさせていただきました。そして、去年11月の選挙で2期目に入らせていただいて、地区別のタウンミーティングは続けてやっていこう、それプラス世代別のタウンミーティング、職業別のタウンミーティングもやっていこうと決めました。世代別でいうと、子育て世代の方に集まっていたいただいたのタウンミーティング。これはもうすでにやっておりますが、将来的にはあえてシルバー世代の方々に集まっていたいただいたのタウンミーティング。前は学生さんとタウンミーティングをさせていただきましたが、今

回はどちらかというと職業別のタウンミーティング。防災というテーマを掲げまして、防災関係の方々にも来ていただいています。今日はこの松山の防災について有意義な話し合いをさせていただき、松山の防災力を高めていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【司会】 それでは、本日のタウンミーティングに入らせていただきます。意見交換を始める前に、本日のテーマ「松山市の防災・減災に対する取り組みなど」について、市長からご説明いたします。

【市長】 初めに松山市の防災・減災に対する考え方、本日のテーマ等についてお話をさせていただきます。東日本大震災が平成23年の3月11日でしたので、丸4年が過ぎました。この東日本大震災は私が防災に向き合うことで起点となったものですが、実は東日本大震災の時、私は松山にいたのではなくて東京に出張をしております。東京で震度5強の強い揺れを感じました。松山行きの飛行機は飛ぶということで羽田空港に向かったのですが、結局、飛行機は飛ばずに羽田空港のロビーで一夜を明かすという、いわゆる帰宅困難者になりました。今日、皆様のご意見をできるだけ伺いたいので、帰宅困難者になるとこうなるんだよという私の体験は、またお時間がありましたら述べさせていただきます。そして、松山市は、東日本大震災の被災地、宮城県の南三陸町の担当になりましたが、その南三陸町にも何度か行かせていただいて、被災地を見て市民の皆さんの生命と財産を守るという責任の重大さを痛感しました。そこで、こうした大規模災害に対処するためには早急に組織を整備する必要があると考え、年度の途中ではありましたが、市役所の本館の5階に常設の災害対策本部と危機管理担当部を設置しました。実は、それまでは大きな災害が起こった際には、松山市は市役所本庁から約2キロの消防署に移動し、そこに本部を設けて災害対策にあたることにしていました。南三陸町の3キロだったと記憶していますが、津波が遡ったのを見て、大きな災害が起こったときには移動も大変だろうと思い、組織を整備しました。市役所はスペースが不足していて、外のオフィスビルに会議室を借りているぐらいなんです。スペースが不足しているので、大きな災害が起こった時には移動するかたちをとっていたのですが、いつ災害が起こってもおかしくないのに、「スペースの問題もあります市役所の中に対策本部をつくってください。年度の途中でもいいですから災害対策の危機管理担当部をつくってください。」ということで、年度途中の11月1日に組織をつくりました。さらに、今年の4月からは消防局内に地域防災課を新設しまして、消防団・自主防災組織・企業などの連携を推進し、地域防災力のさらなる向上を目指すこと

にしています。そして、もう一つ。私も意識と知識と言っていますが、防災士の資格を取ることによって高まった意識と知識を松山の防災に生かしていること、2013年の9月に防災士の資格を取らせていただきました。今回のタウンミーティングにこのテーマを設定したのは、想定される自然災害に対して正しく恐れ、しっかりと備えていただきたい、市民の皆さんと一緒にどこまでできるか意識を共有したいと考えたからです。南海トラフ巨大地震は30年以内に70パーセント以上の確率で起こると言われていて、愛媛県が松山市の被害想定を発表しています。色々な数値が出ていますが、これらの数値は何も対策を講じない場合の最悪のもので、住宅の耐震化や家具の転倒、落下防止、津波からの早期避難などを徹底することで、被害を軽減することができます。また、広島でも去年に土砂災害がありました。最近では1時間に50ミリを超えるような局地的豪雨が頻繁に発生するようになりました。こういったものも教訓にして、がけ崩れや河川の洪水からどう身を守るかなどの対策についても取り組まなければならないと思っています。このようなことから、先月、各ご家庭に備える防災マップの改訂版を作成しました。この中では、新たな被害想定による震度の分布や浸水の範囲を掲載しています。地震・洪水・土砂災害などの災害ごとに適応する避難所の表示を追加するなど、最新の情報を盛り込んだものを全戸配布しましたので、皆さまのご家庭にも届いていると思います。この新しい防災マップも参考にしながら、松山市の防災・減災の取り組みについて皆さんと一緒に検討したいと思っています。90分間の予定ですが、さすがに肩ひじ張ると疲れてしまいますので、あまり肩ひじ張らず、こんな質問をしていいんだろうかと考えずに、ざっくばらんな意見交換ができればと思いますので、今日はよろしく願いいたします。

【男性】 古三津に住んでいます。東日本大震災を教訓にした津波対策ですが、私ども三津のほうに住んでいる者は海岸地帯に近いものですから、津波の浸水の啓発で、集落のいたるところに、「この場所は海拔約何メートルです」というステッカーや表示板が電柱に貼ってあります。それで、後から貼られたものとほとんど同じ高さのところにあるものが、海拔ないしは標高の数字が違うんです。私は古三津で民生委員を仰せつかっておりますが、ある住民から指摘を受けて調べに入りました。地理的なことを申し上げますと、JR三津浜駅のすぐ松山よりのところに踏切があります。フジケンビルの前ですが、そこが最初は海拔5メートルという表示でした。そのほかにもたくさんの表示をしていますが、どうもおかしいということで、西消防署へお願いしまして2週間ぐらいで直してくれました。7カ所ほど

指摘したところ、海拔5メートルの表示のところ、訂正をされた数字は2.9メートルになっているんです。こういう標記の例がほかにもたくさんあります。私が民生委員を仰せつかっているエリアではないものですから、あえて調べには走りませんでした。けれども、津波の浸水で被害が出るとすると、実際の高さが3メートルのところ、2メートルと低く見積もっているところはまだいいのではないかと思います。4メートルとか5メートルという表示を平然としているものがそのまま残りますと、色々な意味で津波がきたときに甚大な被害が出るのではないかと心配しております。お手間がかかるとは思いますが、人命にかかわることですから何とか善処していただければありがたいなと思います。以上です。

【市長】 この標高表示板の設置は自主防災組織さんをお願いをして、目印として電柱等に表示をしていただいていると記憶しておりますが、これは担当からお願いします。

【消防局総務課長】 海拔表示と標高表示が混在しているということで、そういうご意見がありましたら、消防署から確認に行きまして、誤差があるところについては正しい高さを表示したものを設置させていただくようにしております。また、海拔表示と標高表示ですが、今、松山市は自主防災組織さんと標高表示を設置させていただいていますが、松山市が設置する前に先行して自主防災組織さん等が独自に海拔表示を設置している地区が多数あります。そのあたりもホームページの標高マップシステムで掲示しておりますので、実測しまして誤差があるところについては正しい標高を表示するように考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。

【男性】 よろしくお願ひします。でも、インターネットを引いていない方がたくさんいらっしゃるんです。そういう表示をしていただくのはまことにありがたいのですが、周知が徹底できない可能性がある。それと今お話しが出ましたが、最初に〇〇地区自主防災連合会が、海拔標記で黄色い表示をしています。ごく最近になって、水色の表記で標高何メートルだと表示してくれております。これは松山市と〇〇町内会自主防災会となっているんです。私が心配するのは、例えば津波の予報が出た時に、「おじいさん、家の前の電柱をごらんください。ここは5メートルと書いてあるでしょ。」と言った場合、実際は3メートルしか高さがなかったらどうなるか、台風とか色々な気象予報に関する事は事前に天気予報等である程度周知ができようかと思いますが、津波と地震は予告なしです。待ったなしでやってくると思いますので、ぜひよろしくお願ひいたします。

【消防局総務課長】 かしこまりました。確認させていただきます。標高表示と海拔表示につきましては、例えば国土交通省は電柱の線のところが

ここは標高何メートルという表示をしている標記もありますし、また地域では、そのGL（地盤面のこと）の位置が標高何メートルという標記をしているところもあります。誤解を招くような表示は私どもで早速確認をさせていただきまして、正しい標高を表示できるように今後検討してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【市長】 今の話の中で、標高と海拔が出てきましたが、聞き慣れない方はどっちがどっちなんだろうと思われているでしょう。標高と海拔についてあまり深く入り過ぎると、かなり難しい話になってしまいますが、標高と海拔の違いについて説明をしてもらえますか。

【消防局総務課長】 標高と海拔の違いですが、実際の高さは同じです。海拔とは、東京湾平均海面TP（全国の標高の基準となる海水面の高さのこと）から直接測った高さをいいます。一方、標高は水準点を用います。これは日本に2万2千カ所ぐらい基準となる点があるのですが、その水準点から測った高さが標高です。ですから、海拔10メートルのところであれば水準点が5メートルのところであり、そこから5メートルということであれば同じく10メートルということで、標高も海拔も高さ自体は全く一緒です。ただ、この標高と海拔ですが、海拔というのは海岸のTPから直接測りますので、昔は海岸線に海拔表示が多く、標高の場合は水準点から測っていき、山とか高いところも水準点をつなぎ合わせることによって高さを測ることができたので、海岸線に海拔標記をして海岸線以外を標高表示していた時期もあったのですが、今は国土地理院が標高で統一していますので、標高に統一されている傾向にあります。それと測量技術も飛躍的に進歩しましたので、航空測量や衛星を使ったGPS測量などで、正確な高さ、標高を測れるようになっていきます。これが海拔と標高の違いです。

【市長】 なかなか難しい話になってしまいますが、標高と海拔もほぼ変わらないんだと思っていただけたらと思います。そして、皆さんの自分の家は何メートルだろう、近くの日印は何メートルだろうというのはわからないと思いますので、松山市では標高マップシステムをつくりました。わかりやすく言うと、海で泳いでいて足がついたら安心しますが、足がつかないとすごく気持ち悪いですよね。やっぱり目安というのは大事だと思いますので、松山市では平成25年1月1日から標高マップシステムをスタートしております。これは皆さんのご家庭でも見ることができ、松山市のホームページから入れます。この標高マップシステムを見ていただけたらと思います。そして、松山市に津波はどれぐらいの高さがあるのか、どれぐらいの時間でくるのか補足をしてもらったらと思います。

【消防局総務課長】 南海トラフ巨大地震の津波到達時間の予測ですが、

松山市の場合は115分、約2時間で第1波が到達すると予測されております。最大津波高は由良港で3.9メートルです。

【市長】 皆さん、どうしても東日本大震災の映像が思い浮かんでしまうと思いますが、私も防災士の資格を取らせていただいた時に勉強しました。津波の速さは海の深さに関係があり、ちゃんと数式があるんです。これは東日本大震災の太平洋の深さと、南海トラフ大地震の瀬戸内海の深さ、南海トラフ大地震の場合は太平洋側から佐田岬を通して瀬戸内海に入ってくるかたちになりますが、たちまち東日本大震災と同じような高さ、同じような時間でくるわけではありません。先ほど申し上げた、正しく恐れてしっかりと備えるということを心がけていただけたらと思います。やはり正しく知識を持ち、正しく恐れしっかりと備えていただくことが大事かと思っております。

【女性】 私も昨年に防災士の資格を取りました。先ほど市長さんにご説明をいただきましたが、この防災マップが各戸に配られておりますが、十分に活用をされておらず、配りっぱなしになっているのではないかという感を持っております。それは私たち地域に住む者の責任でもありますが、これだけのノウハウが詰まったいいマップができているのだったら、「地域の中でもっと読み解いて活用をしていきましょうよ」と地域からも私たちからも声を上げ、市からも折りに触れて活用を呼びかけていただきたいなと思っております。以上でございます。

【市長】 おっしゃるとおりなんです。実は先ほどの意見を受けて皆さんと話し合いたいと思うのですが、どうやったらこの防災マップを使っているのか。例えば、地区で会をやっていただいでみんな読んでみるとか何か方法がないのかなと思っております。防災マップの表紙を開いていただいで1ページですが、「東日本大震災のあと 松山市民の意識はこう変わった！」というところを見ていただきたいのですが、これが私の悩みでもあります。Q1の「日頃から松山でも自然災害に遭うかもしれない」と思っている人は、平成22年の東日本大震災の前は75パーセント。遭わないと思っている人は25パーセント。つまり四捨五入をすると8割の人が何らかの自然災害に遭うと思っているんですけれども、Q4の「家具・家電の固定をしていますか？」を見てください。私が防災士の資格を取らせていただいた時に勉強したのですが、皆さん、まず家のタンスを思い浮かべてください。タンスを一人で運べますか？運べないですよ。引越しのときなど色々な服をのけて二人で運べるぐらいです。日ごろはタンスの中に色々な物が入っていますが、あれが東日本大震災や阪神大震災の

映像を思い浮かべていただくと、家具は何も固定をしていなかったら飛んできます。当たりどころが悪かったら命にも関わります。当たらなかったからよかったねと思っても、避難の道がふさがれることもあります。簡単に避難ができなくなります。ですから絶対に家具固定はしていただきたいのですが、平成22年を見てください。家具・家電の固定をしていますという人は、わずか2割しかいないんですよ。8割の人が何らかの災害に遭うと思っているんだけど、家具・家電の固定をしている人はわずか2割しかいないんです。東日本大震災の後にちょっと増えて、今では家具・家電の固定をしていますという人は3割で1割増えただけ。当たりどころが悪かったら亡くなるかもしれない。当たらなかったとしても逃げ道がなくなるかもしれない。家具固定をまだ3割の人しかやってくださっていないんです。ですので、我々はこの差を埋めていきたいと思っているんですが、何かいい方法はないものでしょうか。皆さんからもご意見をいただけたらと思います。「こうやったら、もっと使ってもらえるんじゃないかな。」という意見はないでしょうか、どなたでも。

【女性】 私も防災士を取るまでは、その意識はどちらかというところと低かったかもしれませんが、昨年を取らせていただいて、もう一步踏み込んでそういう活動ができるようになったかなと思っています。地域の中の自主防災組織できちんとこれを読んでいって、各戸に呼びかけていくとか、特に独居の方たちに民生委員さんたちの協力を得ながら呼びかけていく地道な方法しかないのかなと思っています。本当にいいものが配られています。自分自身がそうだったようにそのままどこかの机の上に置かれたり、居間に置かれたりするようなことがあると思います。その辺を町内に呼びかけて敬老会や老友会などの団体別に声をかけていくような活動につなげていかなければ広まっていかないのかなという気はしています。

【市長】 皆さんから何かこうしたほうがいいんじゃないかなというご意見はあるでしょうか。総務課長、危機管理課長、市民部長もまた別の立場であるでしょうか。

【消防局総務課長】 私も実は危機管理担当部にいたことがあり、平成23年頃、前の防災マップをリニューアルした際、防災マップの内容を再確認していただきたいので、ある地区で防災講演会を防災マップだけを使用してやりますとお呼びかけをして講演会をやらせていただきました。その際に300人ぐらい集まっていたのですが、防災マップを無くされた方のために予備で100部持っていきましたが、100部全部なくなりました。皆さん無くされたとか防災マップがどこかにいってしまったとか言われていました。防災マップが無くなった場合は、最寄りの支所等で

すぐにお渡ししています。防災マップを参考に私は1時間講演会をやらせていただいたのですが、これだけでも十分内容が濃い講習ができたと思っています。そういうところで我々防災担当者もこの防災マップを使った講習会などを実施して、この防災マップが非常に役に立つという啓発をしていきたいと考えています。いいお知恵がありましたらお聞かせいただいたらと思います。

【市民部長】 市民部長の唐崎と申します。松山市では住民主体のまちづくりということで、各地区にまちづくり協議会の設立を推進しております。現在、全地区の半分弱ぐらいのところでは結成がなされていますが、そのまちづくり協議会の組織の中には、ほとんどのところで防災の安全安心に関する部や組織が作られています。そういったところの活動として各戸への周知の窓口にもなっていたらいいと思いますので、私どももまちづくり協議会との話の中で、その推進や協力要請をしていきたいと思っています。

【危機管理課長】 色々な普及方法があると思います。自主防災組織の皆さんにおかれましては、色々な訓練をやっておられると思います。そうした中、イメージトレーニング的な訓練をするのもいい方法かと思っています。例えば、皆さんがお住まいの地域でどこが危険箇所どこが避難場所になっているか、当然ご承知のことだと思います。例えば、出先で災害に遭遇した。そうしたらどちらに避難をしたらいいのか自主防災組織の中や皆さんのご家庭でこの防災マップを活用したイメージトレーニング的な訓練をやってみるのも1つの方法だと思います。訓練は実際に皆さんに体験していただいて身につくものです。イメージトレーニング的な方法でやってみるのも1つの勉強かと思っています。

【市長】 皆さま方から何かご意見はありますか。

【男性】 私は自主防災会の宮前連合会でやっています。最初に質問がございました標高表示の件ですが、私どもも同じようなケースがありました。皆さんにはあまり標高にはこだわらないようにお勧めしています。なぜかといいますと、水の圧力は漁業従事者の方はよくご存知だと思いますが、そうでない方は水の圧力をあまり実感することがないと思うんですね。例えば、松山では最高で3.9メートルの津波が予想されておりますが、これは沿岸部に津波が到達した時の最大の波の高さが3.9メートルですね。ところが、内陸に津波が押し寄せてきますと、平野部と住宅街とでは波の高さが建物の状況によって変わってきます。ご承知のように津波というのは波長が非常に長いです。ですから、水の圧力というのは非常にすごいものがありますし、特に建物の状況によっては、3.9メートルが場合によっては10メートルになるかもしれません。ですので、標高表示

にはあまりこだわらずに目安としてお考えいただきたいんです。東日本大震災を契機に想定にはこだわらないように周知をされておりますけれども、標高表示もその一環だと思います。津波が来る時にはまずより早く、より高台へ声をかけて逃げるというのが津波の場合の避難の大原則でございます。津波に対しての認識の問題でお話をさせていただきました。以上でございます。

【消防局総務課長】 ご意見ありがとうございます。消防局の中矢でございます。非常に津波に対する知識がお詳しいと思います。津波は波長が非常に長いものですから、例えば、津波で浸水した場合に50センチぐらいだから大丈夫だという安心がものすごく危険を招きます。津波というのは東日本大震災でもありましたように、ちょっとした浸水でも押し波の次に猛烈な引き波がやってきます。くるぶしぐらい浸かっているだけでも引き波によってそのまま海に持っていかれる場合もありますので、非常に危険です。ですから、先ほどおっしゃられたように津波警報が出た場合には高いところに避難をしていただくのが津波の鉄則でございます。ご意見ありがとうございます。

【市長】 今日、学生さんも来られていますが、私の子どもも学生になりまして親と一緒にいない中で、大きな災害が起こった際にはどういう知識を持ってどう動くのだろうかと思うと不安なんですよね。たぶん学生さんのお宅にこれが届いたとしても、なかなか読んでいただくことは難しいんじゃないかな。学生さんに普及させるには、学生さんの立場から何かいい方法はないですかね。

【男性】 防災マップは確かに家に届きました。僕はこの前、大学でタウンミーティングに参加して、松山市の取り組みに興味を持っているほうなので結構見たんですけど、友達の家に行くとぞんざいに置いてあったりします。大学でも防災マップを使った講習とか避難訓練を実施し、どう行動したらいいかわかれば、有事のときには結構学生も避難等で力になれると思うので、学生向けの取り組みを何か市ではいかがかなと思います。

【市長】 今、新たな意見もいただきました。確かにそうなんです。松山は4年制の大学が4つありまして、その大学生の数だけで2万人。51万7千人の中に2万人もいます。専門学校生もいらっしゃるんで、その方々も含めるともっと数は多いということになります。学生さんにどう防災知識を持っていただくかというのも非常に大事なところなんです。沿岸部を見ていただくのが分かりやすいので、お手元の68ページを開けていただけたらと思います。これは防災マップの改訂版ですが、前回に出した時もそうですが、沿岸部で津波が想定される場所を蛍光色の黄色などで表示をして

おります。愛媛大学さんには防災情報研究センターがあり、災害対応の大変有名な先生にもお力添えをいただいて改訂しました。実はこの蛍光色は昔はもっと派手な黄色を使っていたんです。でも、目の不自由な方には、その派手なほうが逆に見にくいんだそうです。そういう色まで配慮した防災マップなんですね。愛媛大学の防災情報研究センターさんのお力添えをいただいて、かなりいいものになっていると思うのですが、各ご家庭には届いているけれども、私どもも即答できるものは限られると思いますので、市内でよく検討し、多くの市民や学生の皆さんにもっと活用してもらえ方法を考えたいと思います。例えば、企業さんの就業時間中に大きな災害が起こる場合もあります。企業さんの会社から近い避難場所はどこなのか。会社で過ごしたほうがいいのか、避難場所がどこなのか。そういったことも、勤務時間中で大変恐縮ですが、企業さんの中で研修をしていただくことが大事なのかな。いつも家で休んでいる時に大きな災害が起こるわけではないので、企業さんでも勤務時間中に起きたらどうするのか、防災マップを使って考えていただくのも必要なことなのかなと思いました。大学の取り組みで何か言えることがあれば。

【消防局総務課長】 大学生の方に防災に関心を持っていただけるのは、松山市の防災にとって非常に心強いかぎりでございます。大学生の取り組みですが、今年度から愛媛大学さんと連携した新たな取り組みとして、環境防災学をやっていただくことになりました。これは環境防災学で単位を取得するとともに防災士の資格を学生さんに取得していただき、社会に出た段階で防災リーダーになっていただこうと、愛媛大学さんと松山市で連携して、今年度から始めました。それとは別に松山市消防局の今年度の重点的取り組み事業として、市内にある全ての大学を対象として大学生消防教育課程を実施するようにしています。これは、仮称を大学生防災サバイバルと題しまして、夏休み中の8月と9月の2日間で、1日目がレインボーハイランド、2日目がこの消防合同庁舎で防災知識、消防訓練、避難所の体験ということで炊飯の訓練などをしていただきます。それと、応急手当に必要な救命講習も受講していただき、普通救命講習の修了証と防災知識も一緒に取得していただくよう今年から始めますので、ぜひ参加をしていただければと思います。これは100名ずつ8月と9月に2回実施します。申し込みは5月頃から各大学にポスターを掲示させていただくとともに、松山市のホームページやフェイスブックやツイッターなども使って広く公募してまいります。定員になり次第締め切りますので、5月に入りましたら、ぜひ申し込みしてください。

【市長】 心肺蘇生法も入っていますね。皆さん、AEDを自信を持って

使えますという方は手を挙げていただけますか。半数ぐらいいらっしゃいますね。ありがとうございます。1回経験をしていただいたら、おそらく大丈夫だと思います。これも私が防災士の資格を取らせていただく時に勉強したのですが、AEDを使う時は音声ガイドが流れますので、それに従ってもらったら大丈夫です。1回体験をしてもらっていると安心だと思います。皆さんの傍で大事な人が倒れて、心室細動、心臓が痙攣しているのをAEDを使って元の動きに戻すわけですが、今はAEDを置いてるところをかなり増やしています。AEDはあるんだけども使い方を知らなくて自分の大事な人を亡くしてしまったというのは、一生つらい思いをされるとと思います。AEDの講習を1回受けていただいたら安心して使うことができると思いますので、こういう機会を捉えてぜひ受けていただけたらと思います。ちなみに問題です。皆さん、ご家庭で電気ストーブなどの家電製品が火事になったらすぐに水をかけてはいけないそうです。なぜでしょうか。実は15ページにその答えが載っているんです。そういう家電製品は電気を使っているものですから、すぐに水をかけると感電をする恐れがあるので、コンセントを抜くとかブレーカーを落としてから消火をしてくださいと書いています。そういう知識もこの防災マップには載っていますので、ぜひ活用していただきたいと思いますし、活用していただけるような方策を市役所としても考えていきたい。また、皆さま方にもお力添えをいただけたらと思います。よろしく願いいたします。

【男性】 私は中島の大浦に住んでいます。災害時にもし何かがあった時、救急艇が三津のほうにあります。呼んでも、行って帰るだけで1時間半から2時間くらいかかりますかね。あと病院もあります。もし津波とかで船が出なくなった時に、ヘリコプターでも来るのかなとか地元の方は話しています。重病とか急を要する処置で、どうしても松山の大きい病院にといった時に、船が一隻しかないと困ります。また、地震などが起きた場合には、かなり高齢化率も高く、古い建物や耐震になっていない住居も多いので、タンスの下敷きになった時は島に住んでいるから後回しという声も聞きます。もし、すごい災害や津波が起きたとか、土砂崩れとか、そういう緊急時の医療体制はどうなるのか、答えられる範囲でお聞きできたらと思います。

【消防局総務課長】 島しょ部の対応としまして、消防局で消防救急艇「はやぶさ」を運行しています。今、年間300件以上運行してまして、かなりご利用いただいている状況です。「はやぶさ」がもし悪天候等で島に向かえない場合、愛媛県には消防防災ヘリコプターがありますので、県と

連携しながら、防災ヘリを出動させて患者を搬送する体制をとっています。それと、大災害の場合は県警、自衛隊、海上保安部とも密に連携を取るようにはしていますので、これらのヘリも活用しまして、緊急搬送を実施するようにはしています。中島の本島はこの防災マップの86ページを開いていただいたらと思います。色々なところにヘリコプターのマークがあると思います。天谷小学校跡や西中などが、地域防災計画でヘリコプターの緊急時離着陸場に指定されております。この緊急時離着陸場にヘリを飛ばして緊急な対応をするようにはしていますので、どうぞご安心していただいたらと思います。

【市長】 近くでいうと大浦は北高の中島分校にヘリのマークがあるようですね。中島南小学校跡、天谷小学校、西中港のあたりについていますね。消防救急艇「はやぶさ」はいわば海の救急車ですから、少々悪天候でも行けるようにはなっているんですね。

【消防局総務課長】 そうですね。台風の接近による強風などで、年間何日かは運行できない時がありますが、通常は「はやぶさ」が出動するようになっています。

【市長】 三津のところに消防救急艇がありますよね。通常の出動だと中島までどれくらいで行けるものですか。

【消防局総務課長】 私も先日、中島まで「はやぶさ」で行ったんですが、通常の出動であれば20分弱で大浦に到着します。

【男性】 119番に電話をかけて、救急艇が出動するまでには結構時間がかかるのかなと。30分くらいかかりますかね。一回呼んだことがあります。すぐ来るかと思ったら、これから出る準備をしますということで、船に常時誰かが乗っているわけではないですね。

【消防局総務課長】 待機室に船長が必ず待機しています。指令があったら、まずエンジンをかけて救急隊員の到着を待っていますので、西消防署からそこに救急隊員が到着次第、出航できる体制を取っています。

【男性】 なるべく早くお願いします。

【市長】 西消防署はわかりやすくいうと旧ダイエーコーノさんのところにあって、そしてすぐ近くの港から消防救急艇が出発します。

【消防局総務課長】 救急車は西消防署にいますが、その消防救急艇がある三津の棧橋には船長が待機していて、そこで船長がエンジンをかけて、西消防署からくる救急隊員を待っているという状況です。

【市長】 島の住宅は耐震化ができていないところもあるんじゃないかということで、今、松山市ではできるだけ耐震化を進めていこうと住宅リフォーム補助制度をやっています。皆さんが耐震化のお金をすべて全部自分

で出すのは難しいと思います。消費税が5パーセントから8パーセントに上がる時に、松山の地域経済が冷え込んではいけないので、とにかくお金を地域で回しましょうということで住宅リフォーム補助制度を設けて、経済効果と耐震化を上げていこうとしました。そういうこともやっていますし、我々も耐震化を上げていきたいという思いですのでよろしく願います。

【男性】 三津浜地区に住んでいます。平成20年8月に、松山市の総合防災訓練で夜間宿泊の訓練をしました。今と事情は違うと思いますが、本庁からも各署の若い方が来られて一緒に訓練をしたのですが、そのときにマイクのスピーカーが雑音で聞きとりにくい、夜間の宿泊体制で指示系統が乱れてうまくいかなかったと感じました。今回、東日本で目視されたりして職員も精度があがっていると思いますが、こういうことが実際に起きた時に、人間の行動は支離滅裂でなかなか難しいと思うんですね。そういう意味で、地域で組織を強固にしていないと夜間訓練ができないことは重々分かっているんですが、市もある程度命令系統をしっかりしていただきたいと思います。お願いします。

【市長】 私から確認です。マイクのスピーカーというのは、町内にあるスピーカーではなく、訓練会場に持ち込んだスピーカーですね。夜間の指示というのは、消防職員とか消防団員とか地区の方とかいろいろいらっしゃると思うんですけど。

【男性】 合同です。

【市長】 なるほど。この辺のことについては。

【消防局総務課長】 松山市の総合防災訓練としては初めて、三津浜小学校で夜間の避難所運営訓練、避難所に泊まっていただくという訓練を実施しました。いろいろ不手際もあったと私も聞いていまして、松山市としてはその不手際については十分に検証して解決する方策をとっています。その後も危機管理担当部が新設されてから、東日本大震災の避難所運営のアンケート結果等も参考にしながら、松山市で避難所を開設した際にどうすればスムーズに避難所が運営できるかというところも市の本部内で十分に協議をしています。それと、先ほどおっしゃったように自主防災組織などが避難所運営訓練をやっていただくというのが非常に大切なことだと思います。東日本大震災の避難所運営の際もアンケート結果を見てもスムーズに立ち上がってスムーズに運営できた避難所と最後まで混乱した避難所がございました。スムーズに立ち上がった避難所は普段から避難所の運営訓練をやっていた避難所です。そういう避難所はスムーズな避

難所運営ができています。ただ、混乱の中での避難所運営は大変な問題が色々出てくると思います。それを普段から自主防災組織や町内会でやっていただいたらと思うのですが、避難所運営の訓練は大がかりなものになると思います。避難所運営ゲームの略でHUGとありますが、危機管理課に80セットくらい貸出ができるものがあり、ご希望いただければ職員も避難所運営訓練に参加させていただきますので、そのカードゲームを普段の研修会の時にやっていただいたらと思います。カードゲームをやっていただだけでも全然違います。これは、コントローラーとプレイヤーに分かれて、私が皆さんにカードを読んでいきます。それをどうするか考えていただくのですが、例えば、避難所にペットを連れてきたとか、女性トイレが不足しているとか、色々な問題がカードの中に出てきますので、それを解決していただく避難所運営訓練を普段からしていただいたらと思います。

【男性】 よくわかりました。それと、防災訓練する場合、私どもは西消防署管内ですが、フォローをしていただきながら防災訓練をするわけですね。これからは、消防職員を抜きにして、自分たちで防災訓練しないと実際に役立たないと思います。地方紙でよく防災訓練の記事が出ていますが、ああいう防災訓練ではいざとなったらできないと思います。今言われたように、地区で消防職員を抜きにして防災訓練をするようにマインドを上げていかないと、実際に役立たないと思います。ありがとうございました。

【消防局総務課長】 ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思います。それが自主防災の本質だと思います。今般、災害対策基本法が改正されて、自主防災組織が災害対策基本法第2条の2の基本理念に、住民の隣保協同の精神に基づく自発的な防災組織と位置付けられましたので、ぜひ自発的な防災訓練を地域の皆さままでやっていただいたらと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【男性】 古川に住んでいます。弊社は年に1回BCP訓練をやっていて、古川から歩いて1時間で会社に行き、備蓄の食料を食べます。今日も調べてきましたら、カレーの備蓄が100食ありました。あと水とシートと土のうを備蓄していました。松山市では公民館活動が盛んに行われていると思いますが、規模が大きすぎると思うんです。私は古川ですが、石井地区は天山・朝生田・星岡と広いですよ。どうしても末端まで伝わってこない。古川の公民館だよりも月に1回、10軒、20軒の班でも回覧板くらい。どういうことをやっているのかがこちらまで伝わってこないのが現状だと思います。私も市民救急サポーターを取っていて、うちの営業所には

5人いますが、4人が取っています。そういうかたちでいつ何が起きてもいいような備えだけはやっています。これからが質問ですが、災害の発生を想定した訓練は、まだまだこれからいっぱいやらないといけないと思いますが、仮に各地区の公民館に避難したら、寝具、食料、水がどれくらいあるのか、男性・女性トイレはどうか、ちゃんと情報は入ってくるのか、どれだけ備蓄しているのか、お金もかかりますが大体何日分あるかがわかれば教えてほしいと思います。

【危機管理課長】 備蓄物資につきましては、松山市では南海トラフ巨大地震に備えて、現在7万5千食の食料を備蓄しています。食料に加えまして飲料水や毛布、それから紙おむつや生理用品、日用品などを主に市内の5カ所の備蓄倉庫に分散して公的備蓄をしています。災害時には必要な物資等を迅速に指定の避難場所に搬送するシステムを取っています。次に避難所のトイレのことですが、避難所の被災の状況によりまして、トイレが使用できるとかできないとかという状況も発生してくるわけですが、特に地震の場合は電気や水道などライフラインが途絶することが想定されるため、松山市では簡易トイレを現在備蓄しています。また、避難所となる小中学校にも備蓄しているほか、別に下水用マンホール内に汚物を直接流して廃棄するマンホールトイレの整備も進めています。現在、番町小学校と新玉小学校の2校に、1校あたり5基のマンホールトイレを設置しています。簡易トイレと合わせて計10基のマンホールトイレを整備しています。また、この下水マンホールトイレは整備計画をつくっていますので、それに合わせて順次整備を図っていきたくて考えています。それと最後に、避難所自体に情報がちゃんと入ってくるのかというご心配のところですが、避難所を開設した場合には市から避難所の連絡調整員を避難所へ派遣することにしています。その避難所の連絡調整員と避難所間で電話等を用いて連絡調整を図るシステムをとっています。また、市内の85の小中学校の避難所には災害時にも優先的につながりやすい特設公衆電話を27年度上半までに設置するようにしていますので、情報はちゃんと伝わるように考えています。それと避難場所によっては防災行政無線等を設置している小中学校がありますので、それら防災行政無線などを使って幅広く広報をする体制をとっています。

【市長】 通信の世界では、テレビもそうですが、アナログテレビからデジタルテレビに変わりました。無線もアナログ無線からデジタル無線になっていて、松山市はデジタル防災行政無線を配備しました。これは一方向ではなく、ダブルでできるようになりましたから、通信も良くなりましたし音声も良くなりました。これが一点と、例えば、坊っちゃんスタジアム

の下などに備蓄をしているんですが、国は皆さんで1週間分の備蓄をしてくださいと言っています。これをすべて松山市が備蓄するとして、52万人の方々が1日3食、1週間分の備蓄をしようと思ったら、ものすごい場所ともものすごいお金が必要です。今、私は市民の皆さんには、申し訳ありませんが皆さんで7日分の備蓄をしてくださいとお願いしています。実際に考えていただくと想像しやすいのですが、備蓄物資を皆さんにお配りする時には公平性を期すために並んでいただかなくてはいけなくなります。皆さんが1週間分備蓄をしていただいたら、まず好みのものが並ばなくても手に入る。お手間だと思いますが、各ご家庭で1週間持ちこたえられるだけの備蓄をしていただきたいと思います。そして、すべて松山市が備蓄するのではなくて、皆さま方にもお願いするし、スーパーやデパートは食料品等を扱っていますので、松山市では、今、様々な協定を結ぶということでやらせてもらっています。いざ困った時にはスーパーさんなどの物資を提供していただく。この面でいいますと、場所などの確保も楽になりますから、そういう協定を結ぶ。もう一つだけ。宮城県の南三陸町の支援の担当となったということで、私も南三陸町に複数回行かせていただきましたが、南三陸町の佐藤町長さんに、「野志さんね、南三陸町は高台にベイサイドアリーナという新しい大きな体育館ができていたので、ここにみんな避難してきて、物資もそこに集まってきたんですけど、最初は大変だったんですよ。人は集まってくるわ、物資は集まってくるわ、シビアな話をしなければなりません、ご遺体もそこに来るんです。全国からの物資も届くんです。そうなるかどうかを置いてはかわからなくなるんですよ。でも、宅配便の業者さんというのは、どこに何を置いてどう運び出したらうまくいくかというノウハウを持っていらっしゃるの、「こういう専門の業者さんの力をいただくことが大事なんですよ。」ということを教えていただいたので、様々な専門業者さんとの協定を結ばせていただいているところです。やはりプロはプロですから、そういう方々としっかり連携して防災力を上げていくことが大事だなということでやっています。今、様々な方が協力してくださっているのですが、各ご家庭で1週間分の備蓄をしていただくのが非常に大事なことで、皆さんもご協力をお願いします。

【男性】 愛媛大学の学生です。先ほど、市長がおっしゃっていた授業を、私は絶対に受講します。すごく面白い取り組みだと思います。ただ、僕は受ける人は少ないと思います。なぜなら、夏休みの授業かつ共通科目の授業なので、別に取りなくてもいいという人が多いと思います。そうならな

いために強制してよいと思います。大学のガイダンスで図書館めぐりが強制になっています。それができるなら、1時間程講習を受けるのは当然可能だと思うので、授業にしなくても必ず勉強する時間を取ればよいと思いました。

【市長】 我々としてもぜひとも受けてほしいですよ。単位も取れるんですよ。全国でも珍しいんですよ。私は、色々な人に防災の知識を持っていただくのが大事だと思います。それこそ、人生のベテランの先輩方に防災知識を持っていただき活動していただく。人生のベテランの方々には、地区のことを詳細にわかっていらっしゃるし、繋がりもある。あそこにどのような方が住んでいる、あの人は一人暮らしとか、そういう知識をお持ちなので、防災の知識を持っていただけるのは非常にありがたいと思います。そういう人生の先輩方だからこそ、そんなに歩けるものじゃない、そんなに荷物を持てるわけじゃないということも教えていただけるので、非常にありがたいと思っています。若い人たちが無関心であるのではなくて、若い人に防災の知識を持ってもらおうと、例えば、20歳で防災士の資格を取ってもらったら、平均寿命は男性が80、女性は86ですので、60年間活動していただくことも可能なんです。今、愛媛大学さんには、防災情報研究センターがあります。そういう先生方もいらっしゃるのので、松山市と連携して単位を取っていただくという取り組みも始めます。防災士の資格を取っていただくと、就職の時にも便利かもしれませんね。これから、各企業さんにも防災知識を持った方に入っていただき、活動していただくことは大事です。そういうところもケアしていこうと、愛媛大学さんと結ばせていただきました。補足がありましたらお願いします。

【消防局総務課長】 ご意見ありがとうございます。そういったご意見を、今後また色々なことに反映させていきたいと考えています。先ほどの防災サバイバルはどうでしょうか。やってみたいと思われるでしょうか。

【男性】 今はわかりません。

【消防局総務課長】 学校にポスターを貼りますので、ぜひじっくり眺めてよく考えていただけたらと思います。それと、義務化してほしいという意識は非常に大切だと思います。先ほど、市長が申しましたように、若い学生さんたちが、今後の松山市の防災を担ってくれると我々も確信しています。今日何人か大学生がお越しになっていますが、松山市は機能別消防団員がございまして、その中に大学生防災サポーターというのがございます。これは、大学生の方に普段から避難所運営の訓練であるとか、救命・応急手当の訓練をしていただき、大学生が専攻している知識があると思いますが、語学専攻している方でしたら、外国人で避難される方もいますの

で、いざという時に避難所運営の手助けをしていただくという大学生サポーター制度がございます。松山大学さん、聖カタリナ大学さん、東雲大学さんもいますが、愛媛大学の大学生サポーターが圧倒的に多いです。それと、3月末で学校を卒業された方がたくさんいまして、今、若干の欠員が生じています。よろしければ、大学生防災サポーターにもチャレンジしていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【男性】 先ほどおっしゃられたように、防災環境学という授業があることを私もニュースで知りました。それで、4月の始めの履修登録の時に、防災環境学があるということを知って、私も受講したいなと思いましたが、共通教育科目の集中講義の中の防災環境学だったので、私は単位と対象学年の関係で受講できなかつたんです。それで残念に思って、今回は履修していませんが、それとは別に、私は2年前に3日間の応急手当普及員講座で市民サポーターを取らせていただきました。その中で、先ほどありました日々のイメージトレーニングが大事ということで、応急手当普及員講座の中でイメージトレーニングをチームごとにやりました。実際にトレーニングをやってみて、何もできなかったという自分がいて、日々の訓練がいかに大切かということを実感しました。それとは別ですが、松山市民会館に災害時無料の自動販売機があったと思いますが、それを見て災害時に利用できる無料の自動販売機がどういうところにあって、松山市にどれくらい設置されているのかを疑問に思ったので質問させていただきます。よろしくお願いいたします。

【消防局総務課長】 確かに災害時の自動販売機がございます。それは、遠隔操作で全部が無料になります。普段はお金が必要ですが、災害時にはボタンを押すだけで飲み物が出てくる災害時専用の自動販売機をいくつも設置させていただいています。数については確認しておりますので、後ほどお答えさせていただければと思います。

【男性】 先ほど防災マップの話も出ていましたが、小中学校でも防災マップを使った教育はされているのでしょうか。防災士という資格があるということをおさいうちから教育していただきたいと思います。それと、私も昨年に防災士を受講して、それまでは今治で受講をしていたというのを聞いたのですが、今後松山市で防災士の講習ができるのか、ぜひともしていただきたいなと思います。そのあたりのことをお願いします。

【消防局総務課長】 大変よいご意見をいただいたと思います。松山市は小中学校の防災教育に力を入れています。命の教育とか色々なかたちをとって小学校の教育に行っていますが、その中で、小中学校の先生方に公費

で防災士の資格を取っていただいています。その防災士の先生方が、今後防災マップを活用して、授業中というわけにはいかないでしょうが、休憩時間であるとかご飯を食べている間ですとか、ちょっとした時間に、子どもたちにこの防災マップを使って色々な話をしていただくのは大変よいことだと思います。参考になるお話をいただきましたので、私から教育委員会とお話をさせていただければと思います。それと、防災士の養成ですが、昨年度から愛媛大学と連携した愛媛大学公開講座の一環として、防災士養成講座を開設しています。今年度も150人規模の講習を3回開催する予定です。8月末から10月上旬にかけて、150人単位で3回をこの会場で開催するようにいたしますので、色々なかたちでこの公開講座についてお知らせさせていただきたいと思っています。もし、この講座をご希望の方がいらっしゃいましたら、消防局地域防災課に連絡いただければ対応いたしますので、よろしく願いいたします。

【市長】 私が帰宅困難者になった時の話をさせていただきます。3月11日の2時46分、私は東京の企業さんにごあいさつに行く時、日本橋の20階建てのビルの真下で震度5強の揺れを感じました。その時は、東京のビルはガラス張りのところが多いので、20階建てのビルのガラスがぎしぎし音をたて、ガラスが落ちてくるんじゃないかなという気持ちでいました。皆さんどれだけの震度を経験されているのかわかりませんが、街灯が大きく揺れるんです。これは大変気色の悪い光景でした。3時、4時とありましたが、3時のアポイントメントは一応対応できたものの公共の交通機関が止まりかけたという感じでした。3時半くらいに東京駅の羽田空港に向かうバス乗り場に立ちましたが、いつまでたってもバスが来ないんです。助け合いの精神は不思議に生まれます。たまたま個人タクシーさんが来られたので、近くに並んでいる全く知らない長崎の二人連れと私も二人が乗り合って羽田空港に向かうことになりました。とても込み合っていて、羽田空港に到着したのが5時半くらいだったと思います。その時、羽田空港に入って松山行きの便を見ていると、当初は最終便が飛ぶ感じだったんですね。徐々に色々な便が休止になってきて、結局松山行きには乗れない。じゃあどうする。松山市は東京事務所が霞ヶ関の近くにありますので、事務所に帰ろうとほかのタクシー乗り場に並んだのですが長蛇の列なんですよ。何台かは来ますが、タクシーにはとてもとても乗れない。全く顔を知らない方ですが、みんな助け合いの精神が生まれるんです。前の方は女性で、「ちょっとトイレに行きたいので行ってきます。」「荷物見てますから大丈夫ですよ。」とか、全く知らない方から「寒いですね。」「私、飴持ってますから食べてください。」とか、そういう助け

合いの精神が生まれるんです。結局、タクシー乗り場で3時間待ったのですが、タクシーには乗れないと思ったので空港の中に入りました。どこかで寝ようと思いましたが、3時間も待っていると羽田空港の椅子という椅子は全部埋まっているわけです。そうすると、どこかの地べたに寝るしかないんです。私は3階のお土産物売りのエスカレーター傍の地べたでした。いっぱい人がいるので場所を確保するのが大変なんです。羽田空港は吹き抜けになっていて、しばらくして下を見ると、毛布を配ったり食料を配ったりするのが見えました。さすがに3時間タクシー乗り場で並んでみると、もう並ぶ気にならないんです。おじいちゃんおばあちゃんもいらっしやるのが見えるので、おじいちゃんおばあちゃん、子どもさんたちが取ってくれたらいいと思い、持っていた新聞を敷いて、体を横たえてコートだけ掛けて寝たんです。あの日は余震もありましたし、地べたで寝ると固いですし、普段布団で寝られることはありがたいですよ。固い、冷たい、痛い、余震がある、眠れたようなものではありませんでした。ほんとに疲れ切った状態で、何とか飛行機に乗れ松山に帰ってこれたという状況でした。今、防災士の資格を松山で取っていただきましょうとお話をしましたが、消防局総務課長は消防職員ですが、いざという時に駆けつけてくれる消防団員は大事ですね。全国では消防団員が減少傾向ですが、松山では知恵と工夫で増やしていて増加傾向です。松山の消防団員数は四国で1番、女性消防団員の数は日本で1番多くいます。そして、防災士は公費で育成させていただいていますので、松山が全国の自治体別でトップです。2位が大分市、3位が名古屋市、4位が仙台市だったですかね。名古屋は225万の都市です。松山の4倍以上の都市より松山は防災士が多いんです。どれだけ多いかというのがわかっただけだと思います。自助・公助・共助とありますが、消防団員は公ですね、公が助けるのを公助と言います。皆さん自らが動いていただいとというのが自助。自助と公助。近所の方々と共にという、共助という言葉もあります。こういうものが連携して松山の防災力が高まる、地域の防災力が高まるので、様々な取り組みをしているところです。小中学校の体育館にいざという時、避難すると思いますが、体育館が強化ガラスになっているところは大丈夫なんです。揺れても割れにくい強化ガラスになっていないところもあるんですね。そういうところに、今、松山では自主防災組織さんの力を借りて、飛散防止フィルムを貼っていただいています。業者さんにやっていただくのも手だと思いますが、あえて自主防災組織の皆さんにガラス飛散防止フィルムを貼っていただいています。やっぱり自分で体を動かすと関心が湧きますし愛着も湧きます。そういうことでやっていますが、平成25年に1校、平成26年に6

校、平成27年度に7校で完了する予定です。こうやって皆さんに動いていただくのはまさに大事なことです。これから様々お願いすることもあります。よろしくお願いします。

【男性】 柳井町で防災士をしています。防災マップの話に戻りますが、私はこの改訂版を今日初めて見ましたが、まだ配布されてないんですか。

【危機管理課長】 しております。

【男性】 されているんですね。最近されたんですかね。

【危機管理課長】 今年の3月末までに全戸配布しております。ご家庭にないようであれば支所等で配布できます。

【男性】 今日新しい防災マップを見せてもらいました。前回もよかったんですが、前回よりはるかにすごくいいものだと思います。ただ、先ほど言ったように、皆さん目を通していない方が多いということで提案です。私も、前回配布された後に、紙ごみの時にこれが出ているのを見て非常に悲しい気持ちになったことがありました。今、全戸配布していて各家庭にこれがあるので、ここは市長さんの力を借りて、市長さんがメディアに出て松山市の行政のお知らせをする。防災についてときどき話をされていますが、この防災マップを「皆さん手元に用意して下さい。」と呼びかけて、「まず6ページを見て下さい。」と。ここで「あなたの住んでいるまち、地域の巨大地震の最大震度はいくつですか。」と問いかけてここを見てもらうと、自分のところは震度7やとか震度6強だということ認識すると思うんですね。市長さんは話のプロなのでここで掘むと思うんです。その後、例えば、洪水や津波のハザードマップ等で、この想定ではあなたが住んでいるまちはこういう危険がありますということで、第2章にどうやってそれを守るかということのポイントだけ言ってもらえば、興味を持ってこれを見る方がたくさんいると思うんですよ。そうすれば、多分引き出しの中に入ってしまったたり、ごみで出ることはある程度防げると思うんです。提案ですが、大学生が防災サバイバルに現時点で参加するかわからないというお話がありましたが、ゲーム性を入れるとすごく楽しくて興味があると。先ほど総務課長さんが言われたHUGですかね。避難所設営をシミュレーションするゲームです。私も実際に番町小学校の体育館で、PTAのお母さんと一緒にやりましたが、次々にカードが出てくるわけです。その中には、体が不自由な人が家族にいるよとか、犬を連れていたり外国人の方がいたり、誰々さんと親戚とかあらゆる想定がやってきて、一応最初想定して設定した避難所になるわけですね。ただ、それでも楽しいというか、参加できるわけです。ゲーム性というのは非常に大事だと思

うんですよ。だったら先ほどのサバイバルなんて生き残りゲームをすればいいわけですよ。防災知識や救急救命知識を持って、想定した中で生き残れるかどうかというようなものにしていけば、楽しいというか。これはあくまでも思いつきみたいなものですが、そういうものを入れれば興味も出てくるんじゃないかという提案です。

【消防局総務課長】 ありがとうございます。貴重なご意見をいただきましたので、今はまだ案の段階ですが、そういったご意見をいただいたということをご参考させていただき、学生で定員がすぐにいっぱいになり興味を持っていただけるような消防の教育課程にしたいと考えています。どうもありがとうございました。

【市長】 ちょうど8時半になろうとしております。私から最後に。実はこの防災をテーマにタウンミーティングをさせていただくのは初めてのことでした。全く初めてですし、どちらかといったら難しい事柄です。地区のタウンミーティングでしたら、あそこの道路に外灯が欲しいので設けてもらえないとか、比較的話しやすいんですよ。ちょっと難しい防災というテーマでやらせていただき、内心は意見が出なくなったらどうしようと思っていたのですが、本当に各世代の方々から色々な意見をいただいてありがたく思いました。今回よくよく感じましたのは、防災マップの活用をどうしていくのか、ご意見を伺って思いました。大きくてランドセルいっぱいになっちゃうかもしれません。「みんなの家に防災マップあるから、持ってきて。」というだけでも、家では「お母さん、防災マップいるって。どこにあるの。」という会話がなされるはずですよ。そういうのもまた1つやり方なのかなと思います。先ほどおっしゃられましたが、松山市には市政広報番組があります。5分の番組を1年間やっています。また、CATVでも松山市政の15分の広報番組を持っておりますが、とにかく皆さんに活用してもらおう方法をしっかりと考えさせていただきたいと思ったところです。最後に申し上げますが、東日本大震災で窓口をさせていただいた宮城県の南三陸町に行かせていただきました。あそこは、ご存知の方も多いでしょう。「皆さん津波が来ています。逃げて下さい。」と放送されていた女性職員さんが、3階建ての防災のための庁舎で放送していて、結局津波に流されてお亡くなりになりました。3階の上に屋上があって手摺があって、佐藤町長さんもその手摺に何とかしがみついて津波を被ったんですけれども、3階まで来てるわけですよ。何とか命を救われた方ですが、津波がくるというので、潮が来るのを防ぐ防潮堤を閉めに行つて命を亡くした消防団員の方もいらっしゃいます。高台に登って何もなくなつてしま

った南三陸町を見て私が感じたのは、やはり命あるものには役割があると。生きたいと思って、死にたくないと思って亡くなった方がいっぱいいらっしゃると思うんです。命をいただいているものは、やはり役割があると思っています。私は、今市長という立場をいただいています、皆さんの生命と財産を守るとするのは市長の仕事だと思っています。市長としてしっかりと松山市民の皆さんの生命と財産を守る仕事を積み重ねていきたいと思っています。やはり我々行政だけではやれることに本当に限りがありますので、ぜひとも皆さま方のお力を貸していただき、皆さんに今日話が出たことを家に持ち帰っていただき、色々と広めていただけたらと思います。また、これから色々なお願いごとをするのではないかと思います。とにかく私の想いとしては、本当は生きたいんだけど、死にたくないと思いを亡くすような方の生命と財産を守っていきたくと思っています。また、色々とお力添えをいただけたらと思います。今日は長時間にわたりましたが、本当にありがとうございました。またこれからもよろしく願いいたします。

【危機管理課長】 すみません。よろしいでしょうか。先ほどの災害時の無料の自動販売機の数がわかりましたので担当からお答えします。

【消防局地域防災課】 先ほどお問い合わせいただきました災害時の救援型の自動販売機ですが、コカ・コーラさんと平成18年か19年に協定を結んで、災害時には無料で提供できるシステムを採用した自動販売機で、昨年7月現在で市内の公共施設等を中心に、151台置かせていただいています。それから、コカ・コーラさんの後にも、サントリーさんやダイドーさん、伊藤園さんとかそれぞれ災害時に活用できるような協定を結んで、市内の各施設に置いています。災害時には災害対策本部からの指示により無料で避難者の方にご提供できるシステムになっています。

【市長】 表示は必ずされているんですか。

【消防局地域防災課】 災害時救援型自動販売機と表示されています。ダイドーさんでしたら災害ベンダー機と表示されています。

【市長】 皆様のご近所で自動販売機を見ていただいて、災害時と書いていたら、そういうことなんだなと思っていただき、認識するだけで変わってきますので、よろしく願いいたします。

— 了 —